

NEWS LETTER



京都教育大学
附属教育実践センター機構

Kyoto University of Education
Organization of Educational Research and Practice Centers

第8号(2012.7.18)

教育支援センター

Educational Support Center

<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/>

教育研究交流会議全体会について～報告と御礼～



今年も6月1日に教育研究交流会議が行われました。月初めの週末の貴重な一日に、多数ご参加いただきありがとうございます。参加者は、全体会だけで、役員、教員、事務職員等を合わせて243名でした。一昨年は183名、昨年が279名であったことと比較しましても、まずまずの参加者であったと思います。七附属合わせた附属教員ならびに学部教員の参加率は、それぞれ、該当教員の中で71%、51%でした。学部教員の参加率が初めて50%を越えましたが、午後の教科別分科会のみ参加の先生もおられますので、それらを加えますとさらに多くの先生方にご参加いただけたものと存じます。ここにあらためて御礼申し上げます。

さて、最近、教育研究交流会議はその存在意義を問われることが多くなりました。振り返れば、平成12年の大学改革において、教育研究交流会議はそれまでの大学・附属すべての教員が参加する研究組織から、交流を中心とした組織へと大きく変化しました。それは、テーマと期間と関係者を明確にしたプロジェクト型の研究組織を指向したものでした。プロジェクトは目的を持って生まれ、目的を達成すれば消滅します。一方で交流会議そのものは、文字通り「研究」よりも「交流」を目指しました。いわばサロンのような研究の孵化(インキュベーション)機能を求めていました。しかし、この改革は理念としてややわかりにくく、また、現実には会員数が一時、激減するなどの副作用を持っていました。

おかげさまで最近、会員数はどんどん増えてほぼ旧態に復しましたが、だからと言って根本的な問題が解決したわけではありません。このままでは、十年前の問題が再び現出するのではないかとさえ感じます。

ちなみに、教育研究交流会議には二つの役割があるのではないのでしょうか。一つは12年改組が目指した先鋭的プロジェクト型研究組織です。今一つは教育大学ならではのオールラウンドで地道な教育研究の基盤としての組織です。基盤がしっかりしてこそ、プロジェクト型の研究がめざす鋭い研究や、教科再編のような幅広い研究が可能となります。二つの研究組織やスタイルは言わば車の両輪でなくてはなりません。この十年、教育研究交流会議はプロジェクト型に振れていましたが、そのことで逆に、基盤型研究組織の良さも再確認できたように思います。昨年来の全体会テーマである「実践的指導力の育成と教育実習スーパースクール化構想」は、プロジェクト型の研究である一方で、基盤がしっかりしてこそその研究です。その意味で教育研究交流会議の実力が試されているともいえます。本研究において、教育研究会議がその役割を十分に果たせますように、今後とも皆様方のお力添えをどうかよろしく願いいたします。(文責 水山光春)



*教育研究交流会議当日にお伺いしたアンケートの結果を、教授会資料(平成24年7月18日、報1-6-2)にまとめています。附属の先生方には、別途配布致します。ご一読いただけますと幸いです。

教育について考えるシンポジウム/セミナー/ワークショップ等について

教育支援センターでは、教育実践に関する支援並びに連携に関する事業を推進するという事業の一環として、各教員や附属学校園が行うシンポジウム等を支援しています。今後行われる予定のシンポジウム等をお知らせ致します。

◎7月24日(火)12時50分～14時20分「総合学習の現在とこれから—私たちが学んだこと、言いたいこと—」

◎8月20日(月)9時～17時「国語教育実践交流会」

◎10月15日(月)夕刻より「東ヨーロッパ・トランシルヴァニアの音楽入門講座」

◎日時未定「美術科工芸特別セミナー—企業における産業・工芸デザインの歴史と現状」

◎日時未定「タイの中等学校における国際科学教育—バクテリアを題材にした衛生・防疫—」

◎日時未定「“性と生”について学ぶ—「人権に基づく性教育」シリーズ—」

◎日時未定 附属高等学校での公開授業

随時、ホームページや一括送信メールにてお知らせしていきますので、お見逃しのないよう、よろしくお願い致します。

留学生と地域住民との交流プログラム



本年度第1回は、6月20日(水)に「中国第2の劇—越劇」というテーマで、上海師範大学からの留学生である倪佳静さんにお話を伺いました。越劇は、上海など江南地方を中心に100年ほど前に色々な要素を集約して出来上がった戯曲で、最初は、歌舞伎のように男性のみで行われていましたが、現在では、宝塚のように女性のみで行われているようです。オペラのように歌で台詞や感情を表現し、同じ舞台装置の中で、役者の言葉から背景や時間経過をくみ取るそうです。越劇専用の劇場もあるというお話でした。



第2回 留学生と地域住民との交流プログラム 「メキシコの文化について」

日時：7月25日(水) 午後1時30分～2時30分
講師：メキシコからの留学生 マリアナさん
会場：教育支援センター 1階 共同利用室



留学生交流演習室のboard deco

教育支援センター1階にある留学生・地域交流演習室ホワイトボードに、本学幼児教育学科のみなさんが、可愛い貼り絵をしてくれています。色とりどりの紫陽花とともに、カエルの歌が聞こえてきそうな梅雨バージョンと、ひまわりも汗をかくほどの夏バージョン、いつも部屋を明るくしてくれています。

出入り自由の部屋ですので、センターへお越しいただき、学生たちの力作をご覧ください



学生ボランティアについて

ボランティア活動に関して、学生に周知していただきたいこと

1. 学生が公立学校等でボランティア活動をする場合、必ず、教育支援センター内の地域支援推進室で登録するようお願いいたします。正式に大学に登録しておくこと、例えば、教員採用試験の書類作成の際に、ボランティア活動の実施について大学側で承認することができ、就職にとって有利に働く場合があります。
2. 京都府内だけでなく、さまざまな地域での多様な学校ボランティア(時間的にも)を紹介することができますので興味関心を持っている学生には、**ぜひ、一度、地域支援推進室に来室するよう**お声かけください。

【教育支援センター内：地域支援推進室】 Tel 075-644-8336 Eメール sien@kyokyo-u.ac.jp

受付時間 月曜日・木曜日 11時～14時 金曜日 11時～15時 担当：河内(かわち)

教育支援センター スタッフ

センター長(併)	水山 光春	075-644-8281	mizuyama@
教育実践連携部門	樋口とみ子	075-644-8337	tomiko@
実地教育部門	小林 稔	075-644-8229	mkoba98@
実地教育部門(兼任)	小山 宏之	075-644-5303	koyama@
モラル・人権意識向上教育部門	関口 久志	075-644-8326	sekihis@
特任教員(京都市教育委員会)	桶谷 守	075-644-8214	oketani@
特任教員(京都府教育委員会)	竹花 裕子	075-644-8216	yuko627@
事務補佐員 センター全般	杉本 恭子	075-644-8335	kyoko@
事務補佐員 地域支援推進室	河内真由美	075-644-8336	sien@
事務補佐員 留学生・地域交流演習室	(16時15分-17時15分) 鄭紫薇(月・火・木) 修寧(水・金)		月・木10時-13時、金12時-16時

TEL 075-644-8335 FAX 075-644-8339 E-mail cert@kyokyo-u.ac.jp

